

# 土地利用計画図

開 発 許 可  
年 月 日  
第 令 和  
号 年 月 日

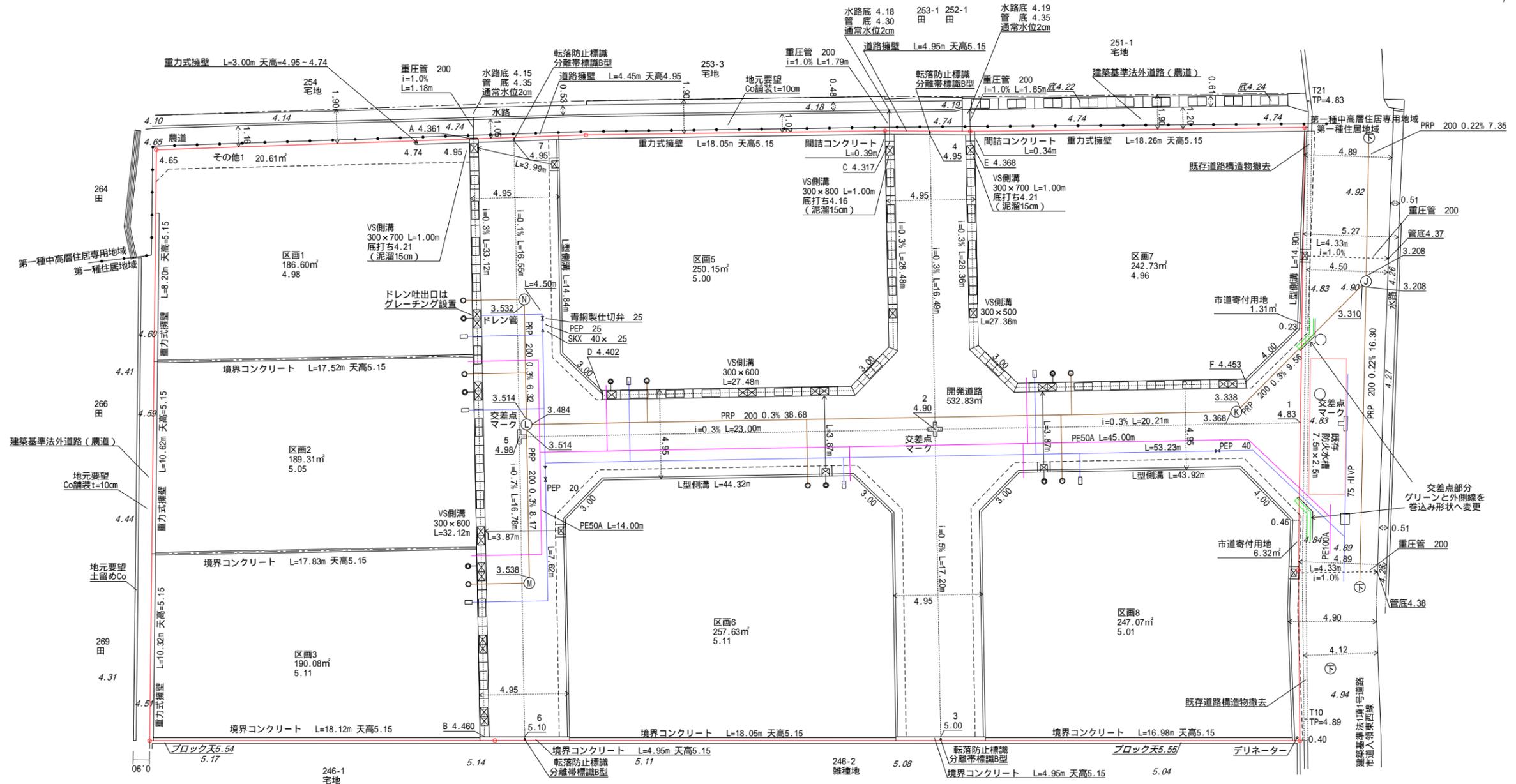
申請者

株式会社 ロタリーハウス・ルーツ  
代表取締役 増元竜彦

作成者 住所・氏名

高松市上福岡町七七八番地一  
土地家屋調査士 藤本頼弘

印



- 1号マンホール インポート施工
- ◎ 宅内下水最終樹T-2 (PP350インポート) (取付管 150VP 1%以上 合計延長17.94m) (樹深さはH=900以下)
- ◎ 宅内雨水最終樹T-2 (PP350泥だめ15cm以上確保) (取付管 150VP 1%以上) (樹深さはH=900以下)
- 量水器 (宅地引込給水管PEP 20、量水器BOXサドル付分水栓 合計延長21.54m)
- ⊗ 仕切弁 ( 40)

- ・ 開発道路内で土被り60cm以下の箇所は管保護を行う。
- ・ 開発協議の対象は最終樹から放流先までとする。
- ・ 雨水を集水する樹には穴あき蓋を使用する。
- ・ 汚水樹はインポート処理を行うこと。
- ・ 管交差部のクリアランスを10cm以上確保すること。
- ・ 街渠樹取付管径 200、管種重圧管、勾配1%以上
- ・ 街渠樹の取付管は、街渠樹の角を通らないように施工すること。
- ・ 本管上での取付間隔は1m以上とする。
- ・ 電柱は開発道路内に設置しない。
- ・ マンホールでの削孔間隔 (前り代) を10cm以上確保すること。
- ・ VS側溝とL型側溝の接合部は段差が無いように施工すること。
- ・ 宅内排水の勾配は1%以上とする。
- ・ 雨水樹は泥溜を15cm以上確保すること。
- ・ 宅内排水の土被りは20cm以上確保すること。
- ・ 予定建物の用途は一戸建ての住宅である。
- ・ マンホール内はインポート処理を行うこと。
- ・ 街渠樹グレーチング、マンホール蓋の耐荷重 T-14
- ・ 本管と取付管は支管接合とする。
- ・ PRPを埋め戻す場合は砕石を使用すること。
- ・ 開発区域境界折点

- 給水管について
- ・ 構造物、水路横断カ所は下越しとし、離隔を30cm以上確保する
  - ・ 40以上の管にはロケーティングワイヤー及び破損防止テープ (埋設表示シート) を施工すること (ただし、横断埋設等は 25以上の管) 上水 40未満の管には破損防止テープ (埋設表示シート) を施工すること (各戸給水管を含む)
  - ・ 埋設深度は土被り0.8m以上とし、管の上下10cm砂巻き、それ以上はクラッシャーランで埋め戻すこと
  - ・ 埋設表示シートは土被り0.3mとする

水道、下水道、防火水槽の正確な位置は不明。工事前に試掘を行い確認する。下水本管数値は、下水台帳記載の内容である。工事前に現況確認を行うこと。